

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.1(2019年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『ビジュアル百科 天皇(125代)の歴史』 山本博文 監修

新しい元号も決まり、来月1日に約200年ぶりの退位をひかえている今上天皇。生前にご退位なさるといふ、滅多にないこの機会に天皇の歴史について振り返ってみませんか。この本は「ビジュアル」をうたっているだけあって写真やカラー刷りの図が多く、とても見やすいのが特徴です。また監修は東大教授でテレビやラジオでも人気の山本博文氏で、彼の解説文は確かな知識に裏付けられていて、分かりやすいですよ。

『皮膚常在菌ビューティ!』

川上愛子

きれい好きな人は、ちょっと汗をかくとすぐにふき取ってしまうかも知れません。でも、お肌の健康から言えばこれをやり過ぎるとNG。なぜって、汗は皮膚に常在する「善玉菌」のエサだからなんです。

顔だけをとっても、その皮膚には何と約10億個もの菌が住みついています。そこには「善玉菌」だけでなく「悪玉菌」も、そして善いこともすればニキビの元にもなる菌があります。この本を読んで、そうした常在菌と仲良くなる術を覚えて下さい。

『敏感すぎて生きづらい人のこころがラクになる方法』長沼睦雄

感覚や感受性が強すぎて、色んな場面で生きづらさを感じている人がいます。「ハイリー・センシティブ・パーソン」(HSP)とアメリカの心理学者がわずか23年前に名付けたこの人たちは、全人口の5人に1人程度もいて、大きな音や刺激臭が苦手だったり、恥ずかしがり屋だったり、対人関係に問題を抱えていたりします。この本は、実践的なワークなどを通じて「生きづらさ」を少しでも解消していこうと精神科医が書いた本です。興味を感じたら、手にとってみて下さい。

ポッティチェリの「ビーナスの誕生」は名画として知られますが、実際には「誕生」を描いたものではないそうです。気になる人は『人騒がせな名画たち』(木村泰司)をぜひ読んで下さい。また現在、大阪で「フェルメール展」が開催されていますが、『愛蔵版 プレミアム美術館 フェルメール』は画家の現存する全35作品の写真(盗難で行方不明の作も含まれます)を載せ、詳細な解説を加えています。大型本ですので、見易いですよ。

『麒麟児』 沖方 丁(うぶかた とう)

筆者はSFを主に執筆しますが、彼の2009年の時代小説『天地明察』は文学賞も受け、岡田准一主演で映画化されるなど高く評価されました。その彼による最新の時代小説が本書です。テーマはよく小説等で取り上げられる「江戸無血開城」。いわゆる「テッパン」ネタですね。勝海舟や西郷隆盛らが活躍して江戸時代を終わらせるという人間ドラマを、筆者がどう料理するかが見ものです。

横山秀夫の6年ぶりの新作『ノースライト』も入りました。

『0から1をつくる 地元で見つけた、世界での勝ち方』 本橋 麻里

「地域に愛される、楽しいカーリングチーム」を目指してチームを結成し、昨年の冬季オリンピックで日本史上初の銅メダルを獲得した本橋氏。この本は彼女の初めての著作で、内容は彼女の自叙伝的なものから、ソチ五輪での失敗談、結婚や「もぐもぐタイム」のことなど、バラエティに富んでいます。



『ムラヨシマサユキのお菓子 くりかえし作りたい定番レシピ』

プリンや蒸しパン、チーズケーキなど定番のお菓子の作り方を解説しています。調理のすべての工程にカラー写真が付いていて、手に入りやすい材料で構成されていますので、今日からでもチャレンジできるお菓子ばかりですよ。

『超訳マンガ 百人一首物語 全首収録版』 大西はるか他

百人一首って、いまいち分かりにくいですよね? 本校でも1年時にかかるた大会がありますが、そのために百人一首を暗記できたとしても、「もう少し歌の意味とか背景が分かればなあ」って思う人もいるんじゃないでしょうか。そんなあなたにオススメが本書で、なんと17人の漫画家が百首全部を易しく楽しく解説してくれるんです。全ページがカラー刷りで、見やすいのもポイントです。本来、漫画は1日のみの貸し出しなのですが、本書は教育的内容から2週間借りられるようにしています。

『この名曲が凄すぎる』 百田尚樹

人気作家でもあり、また保守派の論客として政治ニュースでもよくその名を見かける百田氏ですが、彼はクラシック音楽ファンらしく、購入したCD等は二万枚を超えるようです。本書はクラシック入門書で、筆者の的確で分かりやすい解説が光ります。また付属のCDは、図書館内でのみ聴くことが可能です。

今号のひとこと

失敗した所でやめるから失敗になる。
成功する所まで続ければ成功になる。

松下 幸之助(1894-1989)

あの電機メーカー「パナソニック」を一代で築き上げ、「経営の神様」とまで呼ばれた松下幸之助の名言です。彼は幼い頃に家が破産し、小学校を中退させられ丁稚奉公に出された苦学人でした。16歳で電力会社に就職し、そこでの経験を活かして安全な電球ソケットを発明したりなどして、やがて彼はパナソニックの前身にあたる電機会社を設立します。

彼は小学校も卒業できませんでしたが、教育の大切さを深く理解し、政治家を育てる「松下政経塾」を創立したり、大学に多額の寄付をしたりしています。